

審議会等の会議結果報告

1 会議名	令和４年度津市献血推進委員会会議
2 開催日時	令和４年９月２６日（月） 午後２時から午後３時
3 開催方法	津図書館 視聴覚室
4 出席した者の氏名	（津市献血推進委員会委員） 東 良久委員、上野 利通委員、横田 明人委員、松原 年生委員、樋口 奈津子委員、加藤 元司委員、笹村 峰司委員、藤田 創委員、舟橋 裕子委員、渡邊 千裕委員、野口 裕介委員 （事務局） 健康医療担当理事 玉木 幸樹 地域医療推進担当参事（兼）地域医療推進室長・こども応急クリニック・休日デンタルクリニック所長・久居休日応急診療所所長・応急クリニック所長 濱田耕二 地域医療担当主幹（兼）こども応急クリニック・休日デンタルクリニック事務長・久居休日応急診療所事務長・応急クリニック事務長 小野寺卓也 地域医療推進室地域医療担当副主幹 稲森英里
5 内容	(1)会長及び副会長の互選について (2)令和３年度津市献血推進事業実績報告について (3)令和４年度津市献血推進事業計画について (4)令和３年度献血者の動向について (5)津市骨髄移植ドナー支援事業について
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	0 名
8 担当	健康福祉部地域医療推進室地域医療担当 電話番号 ０５９－２２９－３３７２ E-mail 229-3372@city.tsu.lg.jp

議事の内容 次のとおり

事務局	定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。 本日は大変お忙しいなか、委員の皆様におかれましては、令和4年度の津市献血推進委員会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。 この委員会はお手元の資料1の委員会設置要綱のとおり、安定した血液確保のための献血活動の推進や、市民の皆様の献血への理解の普及に関しまして、広くご意見を聴かせていただくために、設置されたものでございます。 また、お手元の委員名簿のとおり、この委員ですが13人の委員で構成されておりまして、委員の任期は2年間となっております。昨年度がちょうど改選時期でございましたが、人事異動など、それぞれの団体様のご事情によりまして、前委員の方の残任期間という形で、今年度から新たに委員にご就任いただいた方もお見えになります。 なお、昨年度は、コロナの感染拡大の影響によりまして、会議の開催を書面でさせていただきましたので、会議でこのような形で皆様とお会いさせていただくのは初めてとなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、あらためまして、本日ご出席の委員の皆様を事務局からご紹介させていただきます。お手元の委員名簿の順にご紹介させていただきますと思います。
健康医療担当理事	【委員紹介】 続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。 最初に、健康医療担当理事の玉木よりご挨拶申し上げます。 健康福祉部健康医療担当理事の玉木でございます。 本日は、何かとお忙しいところ、令和4年度献血推進委員会にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。 委員の皆様におかれましては、日頃より、各分野におきまして、市行政推進のために、多大なる御理解、御協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。 さて、献血の推進は、血液法に基づきまして、国、地方公共団体、採血事業者の責務が定められており、関係機関において様々な取組が行われているところでございますが、現下の全国的な献血の傾向といたしまして、少子高齢化に伴う人口減少が進むなかで、特に若年層の献血率の減少が続いてございます。 国は、将来の人口推移から、今後、血液需要が増加し、必要となる献血者数が、現状の実績を上回ると試算しており、昨年度、令和7年度までの5年間の取り組みといたしまして、若年層対策の強化を重点に置いた中期目標を新たに設定

事務局	してございます。 そのような中でも、三重県全体の献血率は、全国平均を上回っていると聞きしており、これもひとえに、三重県赤十字血液センターの取組をはじめ、企業等における職場献血へのご協力など、皆様方が、献血者確保に向けてご尽力をいただいている結果であると捉えております。 しかしながら、献血は皆様からの善意によって支えられておりますが、本市におきましても、人口減少に加えまして、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、献血へのご協力が得られにくい状況が続いております。 市といたしましても、将来にわたる安定した血液の確保に向けて、献血の大切さを市民の皆様にご理解いただき、献血に御協力いただけるよう、今後も皆様と連携して献血推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、本日は皆様方からの忌憚のない御意見、御助言をいただきますよう、よろしく願いいたします。 あとこの事務担当は、地域医療推進室がさせていただきます。 担当主幹の小野寺、担当副主幹の稲森、そして私、室長の濱田でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。 本日は委員会構成委員の過半数の出席をいただいておりますので、津市献血推進委員会設置要綱第6条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。 また、この会議は、津市情報公開条例第23条の規定により公開となります。 なお、本日の傍聴者はございません。 会議の内容は、議事録として津市ホームページに掲載いたしますので、議事録作成のため会議内容を録音させていただきますので、あわせてご了承をお願いいたします。 それでは只今から会議をお願いするわけでございますが、お手元の事項書にございます事項1の「会長の選任について」、事務局から経緯をご説明させていただきます。 本委員会の会議は、要綱第6条第1項により、会長が議長となると定められております。 しかしながら、本委員会の会長を長年にわたり務めていただいております久居一志地区医師会の南先生が、ご都合により、今年の4月末日で委員を辞職されており、現在、会長職が不在となっております。そのため、本日の会議は、最初
-----	---

藤田副会長	に会長職を委員の皆様で決めていただく必要がございます。 つきましては、本委員会の会長が選出されるまでの間、要綱第5条第3項の規定により、副会長が会長の代理をしていただくこととなりますので、藤田創様に議長職をお願いし、この後の議事進行を務めていただくこととなります。 藤田副会長、よろしくお願いいたします。 副会長の藤田でございます。 会長が選出されるまでの間、会議の進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。 先ほど事務局から説明がありましたとおり、本委員会の会長を決めてまいります、委員会の設置要綱第5条第1項の規定により、会長は委員の互選により定めることとなっております。 なお、互選につきましては、自薦や他薦という方法もあるかと思いますが、委員の皆様は、お互いが本日初めて顔を合わされたという状況だと思いますので、私としては、出来ましたら、事務局から案をご提示いただいて進めていくのが良いのではないかと考えますが、いかがでしょうか。 (異議なしの声あり) ご異議がないようですので、事務局から案をお願いします。
事務局	ただいま藤田副会長から、会長の選任にあたりまして、事務局案をとというお話をいただきましたので、大変僭越ではございますが、ご提案させていただきたいと思います。 事務局といたしましては、平成27年度から7年間にわたり、医師という専門的なお立場から、本委員会の委員を務めていただいております、公益社団法人津地区医師会の代表であります東 良久委員を会長としてご提案させていただきます。
藤田副会長	ただいま事務局から、会長の事務局案として津地区医師会の代表であります東先生をとの説明をいただきました。 委員の皆様、いかがでしょうか。 (異議なしの声あり) ご異議がないようですので、本委員会の会長につきましては東委員をお願いしたいと思います。 それでは、ここで議長を交替させていただきます。 委員の皆様には、議事進行にご協力いただきありがとうございます。
事務局	それでは、この後の議事進行につきまして、東先生よろしくお願いいたします。お手数ですが、会長席へご移動願いま

東会長	す。 先ほどご指名に預かりました津地区医師会の東です。この委員を引き受けて7年になったとお聞きしてこんなものかなと思ってちょっとびっくりしている次第です。 2、3月か前に事務局のほうから南先生が退職をされるから後をお願いしたいと頼まれたのでどうしようかなと思ったのですが断る理由もないし、これも順番かなと思って引き受けることにしました。しかし、組織のトップというか、会のトップになるのは小学生のころに学級委員をしたことくらいなので、何か色々不手際があると思いますが、その辺はご了承をお願いしたいと思います。 早速、はじめさせていただきたいと思います。 それでは、議事を進めさせていただきます。 事項2の「令和3年度津市献血推進事業実績報告について」と、事項3の「令和4年度津市献血推進事業計画について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	事項2の「令和3年度津市献血推進事業実績報告」と事項3の「令和4年度津市献血推進事業計画」についてご説明させていただきます。 最初に、事項2につきまして、お手元の「事項2資料」をお願いいたします。 1の献血の実績でございますが、津市の公共施設（津市役所本庁舎、津市水道局、津市消防本部）におきまして、令和3年度は計9回実施しました。受付け数は255人、うち、献血には当日の血圧や献血の間隔など一定の基準がございますので、結果として献血者数は228人となりました。 なお、昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、市内での献血会場の受け入れ中止や延期が相次いだため、市の公共施設においては、来庁者の方もご協力していただける市本庁舎等を会場とした献血回数を前年度の3回から4回に増やしました。 また、津管内における献血バスでの実績については、令和3年度は160回実施していただき、受付け数は5,132人、献血者数は4,537人となりました。前年度と比較しますと、受付け数は534人、献血者数も467人減少しております。 昨年度の献血者の減少は、やはりコロナの感染拡大の規模が大きかったことと、感染の波が長期化したことで影響を大きく受けたと考えております。 次に、2の啓発実績でございますが、津市の公共施設で行

う献血については、年間を通して、全戸配布する市の広報紙や市のホームページに献血の案内を掲載し、市民の皆様に広く献血への協力を呼び掛けました。

また、例年行っておりますが、4月に行う津市の新規採用職員研修において、献血への理解と協力を求める活動の一環として、職員に啓発チラシを配布しました。

次に、献血の啓発用品として、献血にご協力いただいた方と、特に若い世代に向けてということで、成人式に参加された方にお配りするために、資料下段のデザイン①とデザイン②のチラシを入れたウェットティッシュを作成しました。

献血協力者配付用として、デザイン①を5,000個作成し、三重県赤十字血液センターが市内各所で献血を実施された際に配布し、継続した献血にご協力いただけるよう呼びかけを行っていただきました。

また、成人式配付用としては、デザイン②を1,000個作成し、令和4年1月9日に開催された成人式で配布し、新成人への献血協力への意識を持っていただけるよう啓発を行いました。

以上が令和3年度の献血推進事業の実績報告でございます。

次に、令和4年度津市献血推進事業計画についてご説明させていただきます。お手元の「事項3資料」をお願いいたします。

年度途中であり、一部実施済みの事業もありますがご了承願います。

1の啓発推進活動でございますが、先ほどご説明しました昨年度の活動を今年度も継続して実施しております。

今年1月以降始まりましたコロナの第6波の感染拡大が長期化したこと、また、特に第7波では感染規模が急拡大したことで、三重県赤十字血液センターさんからは、昨年度同様、献血会場の受け入れが非常に減っているとお聞きしております。

このことから、津市の公共施設で行われる献血については、必要血液量の確保に向け、今年度も市の広報紙や市ホームページにおいて献血の実施日時を掲載し、多くの市民の皆様にご協力いただけるよう周知・啓発を行うとともに、本市の幹部職員が集まる会議においても、津市役所本庁舎で実施される献血について、各課職員への献血への積極的な協力依頼を行っております。

また、今年度も4月に実施した本市の新規採用職員研修に

東会長 松井委員	において、職場献血等への協力について啓発チラシを配布いたしました。 次に、今年度も啓発用品を作成して配布したいと考えております。 啓発用品については、昨年度同様、ウェットティッシュとし、資料中段のとおり、デザイン①は献血協力者配布用として、デザイン②は成人式配布用として作成したいと考えております。 作成個数については、献血協力者配布用は5,000個作成し、11月頃を目途に三重県赤十字血液センターにお渡しし、市内で実施される献血バスによる献血協力者に配布いただく予定です。また、成人式配布用は1,000個作成し、来年1月8日に実施予定の成人式会場で新成人に配布したいと考えております。 次に、2の津市公共施設における献血の実施計画でございます。 今年度も市の3箇所の公共施設を会場として、6回実施する予定です。 市役所本庁舎では3回の実施を予定しており、既に令和4年5月18日に津リージョンプラザで実施し、受付者数は43人、献血者数は41人となっています。今後は、9月28日と来年1月6日の2回を予定しております。また、上下水道局では2回、消防本部では1回実施しております。 今年度も引き続き、三重県赤十字血液センターと連携しながら、可能な限り献血を実施し、献血量の確保とともに啓発を推進していきたいと考えております。 以上が令和4年度の献血推進事業計画でございます。 次に、事項4の「令和3年度の献血者の動向について」、三重県赤十字血液センター様からご説明をお願いいたします。 「令和3年度版献血のあゆみ」という冊子がありますが、これに沿って簡単に説明させていただきたいと思います。1番の統計のページですが、こちらご覧になっていただきまして、これは三重県全体のことですけれども、受付されたのが、7万1千人程なのですが、残念なことに血液が薄かったり、最近コロナに罹ったり、血管が細かったりして、色々あって残念ながら献血まで至らなかったのが8%ぐらい出てしまうということで、実際は6万5千人の方に献血していただきまして、この割合というのは、リピーターの人がいらっしやいますので延べで行くと総人口の5%近くはいくのですが、総人口の実献血者でいうことになりますと、1.7%、これ
------------------------	--

はですね、献血対象人口詳細に割り算しておりませんので、実際はもう少し低い数字になってきているのではないかなと思います。いずれにせよ一度献血にご協力していただいた方がかなりの数の人がもう1回もう2回ほどしていただいて、なんとか予定の量の献血者の確保ができているということになります。

実際的には献血率の高い県というのもございますので、三重県は全国を少し下回るのですが、皆様のご協力によって、予定数は取れているということになっております。

施設別献血数というところを見ていただきますとわかりますが、献血バスで主に全血と言われる赤い血液を取っているのですが、固定ルームが津は桜橋、四日市は駅前、伊勢は伊勢赤十字にあるのですが、そこは血小板や血漿成分を取るのをメインにしていますので、全血と言われるものを取ってくる一番メインのところはよくお世話になっています献血バスをお伺いさせていただいて取らせていただくということで非常に大事になってきます。この中から色々な感染症とかを除いて最終的に製剤となって県内全体では16万単位ほどを供給しているということになります。

血漿製剤は前年度に比べると8割方になって2割方減っているのですが、医療の変化と言いましょうか、血漿交換といわれる治療が減って、令和3年は少なかったということで、このまま減っていくかどうかは未定ですので、やはり安定供給していく必要があります。

2ページ目のグラフになっている上の段の棒グラフですが、右肩上がりになっているということは、全体の献血者数はご協力があってもコロナ禍にあっても多少増えているということになります。供給量自体は、やはりちょっと減ってはいるのですが、血漿成分と言われる製剤に回っていく部分が増えているので実際供給がいらなくなったという意味ではございません。三重県でたくさん献血をして取ってもらって、それを足らない県に回しているという、東海北陸ブロックの活動として三重県が支えているという部分もあるかと思えます。

3ページ目の上のグラフが1番大事なグラフなのですが、10代の方というのがなかなか増えていかなくて、20代30代もやはりそれほど増えていない10年前に比べて減少しているということでありまして、それでもなんとか安定供給できているというのは50代の人非常に献身的なりピーターになっていただいて支えているということで、こちら

	の方がだんだんお年を召されて献血できなくなってくるとやはり将来的には非常に不安だなということで本部というか厚生労働省のほうといたしましても若年者の献血者の確保ということが1番緊急の課題となっております。おそらく10年前に戻ったら50代の方が40代だったわけでこの方たちが非常に積極的に貢献してもらっているわけで将来20代30代の方がリピーターになってくれたら不安はないのかもしれませんが、一番簡単に申し上げますと10代20代の献血者を強力な方法で推進していくということが一番の課題となっております。 4ページ目ですが、非常に協力をしていただいているのですが、前年度に比べるとバスを持っていけないところがあったりして前年度比を10%ほど下回っているのが現状でございます。 若年者の確保というところで8ページ目9ページ目をみていただきまして、献血セミナーを高校や専門学校でやっていく、サマーとかクリスマスの献血キャンペーンを若手の人に協力してもらってやっていく、三重県の学生の献血推進連明がありまして色んなボランティア活動をしていただいている、ヤングミドナサポーターの活動をとおして将来の安定供給に向けて努力している、そしてご協力していただいているところであります。私のほうからは以上です。
東会長	どうもありがとうございました。病院にいるときに血小板が結構10単位とか5単位とか頼んでいたのですが、このような努力があったのだとしみじみと考えさせられています。
事務局	最後に、事項5の「津市骨髄移植ドナー支援事業について」、事務局から説明をお願いします。 津市骨髄移植ドナー支援事業についてご説明させていただきます。 お手元の「事項5資料①」をお願いいたします。 市では、より多くの骨髄等の移植の実現とドナー登録者数の増加を図るため、「津市骨髄移植ドナー支援事業」を平成27年4月1日から実施しております。 支援内容でございますが、助成金の交付対象者は、骨髄移植ドナーとなった市民の方と、そのドナーを雇用している津市の区域内で事業を行う事業者としております。 助成金の額については、骨髄等の提供のために通院・入院などに要した日数に応じて、最大7日を上限として、ドナーは1日につき2万円、ドナーを雇用する事業者に対しましては、1日につき1万円を助成させていただきます。

東会長	なお、骨髄移植ドナー支援に係る要綱や申請書は、市ホームページからダウンロードすることが出来ます。 また、これまでの実績でございますが、ドナーについては、令和元年度は2人、令和2年度は1人、令和3年度は2人、今年度も8月末時点で1人となっております。 骨髄移植は献血同様、個々の皆様の理解と善意が必要となります。 お手元の「事項5資料②」のとおり、事業啓発用のチラシもございますので、一人でも多くの方にドナー登録していただきますよう、委員の皆様からも当該支援事業をご案内頂ければ幸いです。
東会長 事務局	ありがとうございました。 それでは意見交換に入らせていただきたいと思います。 ただいま事務局と三重県赤十字血液センター様から説明がございましたが、ご意見やご質問等はございますか。
東会長	ドナーの登録者は何人くらいみえるのですか？ 全国的には毎年少なくとも2000人程度、津市においては1人ないし2人というのが現状でございます。
事務局	ドナーに登録したらいいのでしょうか。治療の対象の方がこれくらいなのかと思いました。登録した方の中から、そうですね、勇気がいりますもんね。 実際、ドナーの人が治療したってことはないのですね。 登録制という形で、こちらのほうで助成金を支給した方までの把握はしていますが、その後、ドナー登録された方がどのような形で活用されているかという情報は実際、こちらのほうでつかみ切れていないというのが現状でございます。
東会長 事務局	その他、意見なり気づいたこと、疑問等ないでしょうか。 意見もないようですから事務局のほうにお返しします。 ありがとうございます。今回、1年ぶりの会議開催という形になりました。実際、市としてこういう献血推進に何ができるかということで同じような形の事業を継続はしております。私もここに来て2年目ですが、具体的にもう少し何かできることはないかなと感じているところです。特に企業さんや団体さんが職場献血でのご協力をいただいているのですが、逆にそういったところで市のほうに何かさらに協力できるようなことがあればまたお声がけいただきたいですし、特に若い世代というところの部分では、成人式にむけて啓発をしているのですが、それ以外のところで何か具体的にこれをやったら効果があるなというところまでは、なかなか事業として考えられていないのが現状でございますので、会議と

しては年1回なのですが、何かいいアイデアとかご提案があれば、私どもの室のほうにお声がけをいただければと思っていますので、よろしくお願いします。

皆様もそれぞれのお立場のなかで引き続き献血推進へのご協力をお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

以上をもちまして会議を終わらせていただきます。ありがとうございました。